地区名：富田地区

実施主体：富田地区むらづくり運動推進協議会

１　基本データ

○地区人口　　3,000 人（H31.1.1 現在）

○世帯数　　908 世帯

○行政区数　　18 行政区

○面　積　　約 21.7 平方キロメートル

○地区の沿革

富田地区は、東は九頭竜川、西は真名川の二大河川に挟まれ、日本百名山に数えられる荒島岳のふもとから、東西約４㎞南北約７㎞に細長く広がる純農村地帯である。

２　現状と課題

富田地区むらづくり運動推進協議会では、市民憲章を基調とし、富田地区の将来にわたって明るく豊かな地域の実現を図るため、地区住民が、自らの手による活気ある地域づくりの推進に努めている。

しかしながら、近年は、本協議会を構成する地区内の各種団体の活動自体が低迷・衰退しており、中には団体が解散したり、実質の活動が休止になっていたりするものもあり、併せて、本協議会の中心となる各集落から選出される「集落推進員」も地域活動への参画意欲の低下が見受けられ、本協議会の活動も、「花いっぱい運動」等の環境美化作業や「とみた夏まつり」以外には特筆すべき地域づくりの活動も見られず、協議会もそれらの運営に終始し、イベント終了後には活動が低調になっており、新たな地域づくりの方策を模索しているところである。

一方で、各集落においては、区長を中心として様々な地域づくりに関する活動が行われているが、この活動も、人口減少や高齢化の進行に伴い徐々に低下しており、地域コミュニティの衰退を招いている状況にある。

とみた夏まつり「みんなで踊ろう大野音頭」

３　平成３０年度の事業内容

【平成３０年度の取り組み】

「地域のコミュニティ意識醸成事業」

実施行政区：七板区

「コミュニティ施設維持管理事業」

実施行政区：富塚区、土打区、新塚原区、川上区

平成３０年度は、昨年に引き続き、それぞれが抱える問題を住民自らが解決する協働作業に対して支援をする「地域コミュニティ活動支援事業」を継続することとし、区民の安全な生活や利便性の向上、集落活動の活性化を目的とし、「地域住民のコミュニティ意識醸成事業」に１集落が、また「コミュニティ施設維持管理事業」に４集落が取り組むこととなった。

①地域コミュニティ意識醸成事業

（実施行政区）　七板区

（実施内容）

・集落をも下ろせる丘上に、国旗掲揚柱を設置することにより、祝日には国旗を掲げ、市を挙げて取り組んでいる、国旗を掲げる運動を周知し、自国を愛する心及び他国を尊重する心並びに郷土を愛する心及び他人の考え方や行動を尊重する心を育み、もって地域コミュニティの醸成を促した。

整備前

基礎工事

ポール設置作業

完成

②コミュニティ施設維持管理事業（その１）

（実施行政区）　富塚区

（実施内容）

・集落センター周りが土のままの土手などであり、雑草が生い茂ることに加え、センター周りを歩く際もつまずくなど危険が伴っていた。このため、周囲をコンクリート打設することにより、維持管理の軽減と安全を確保し、区民の利用促進を図った。また、現花壇周りのブロックを入れ替え、景観の向上と管理をしやすくすることで、区民で花壇を管理する環境美化意識の向上につなげた。また、ごみステーションの再塗装を行い、利便性と環境衛生の向上を図った。

土手　整備前

土手　コンクリート打設作業

土手　整備後

花壇　整備中

花壇　整備後

ごみステーションの塗装中

ごみステーション再塗装後

③コミュニテイ施設維持管理事業（その２）

（実施行政区）　土打区

（実施内容）

・集落センター横の広場に、地区が管理する３ｍ×１ｍ程度の花壇があるが、その花壇を５ｍ×２．８ｍの大きさに再整備し、環境美化を図るとともに、地域住民の環境意識の向上、そして、これまで以上に地区の花壇として地区民に愛着をもってもらえるものとし、コミュニティ意識の醸成を図った。

④コミュニティ施設維持管理事業（その３）

（実施行政区）　新塚原区

（実施内容）

・集落センター裏をコンクリート打設することにより、維持管理の軽減と新たに駐車スペースが確保され、区民の利用促進が図られ、地域コミュニティの向上につながっていくものと考えられる。

整備前

ブロック積工

整備前

土　敷き均し

敷き均し

整備後

コンクリート打設

コンクリート打設

整備後

⑤コミュニティ施設維持管理事業（その４）

（実施行政区）　川上区

（実施内容）

•集落センターと隣接する広場を行き来する際、植栽や雑草が生い茂り、また狭いため不便であり危険であった。そのため、連絡路を拡張しコンクリート打設を行い、階段も再整備することにより、利便性向上と除草等の維持軽減を図った。また、夜間行事の際、段差を踏み外す危険もあったので照明も設置した。これにより、集落行事の活性化に寄与し、今後のさらなる地区の発展が期待できる。

整備前

支障木　伐採

コンクリート打設

整備後

照明設置

４　平成３０年度の事業成果

少子高齢化が進み、各集落から若い人を中心に人口の流出が続いており、それに起因し、これまで実施されていた集落活動が年々低下しており、区内に設置されている広場等のコミュニティ施設も子どもの減少等により、その利用が減ったり、利便性が悪いことから使用頻度が少なくなり、その結果、雑草が生い茂ったりし、次に、その維持管理の負担が大きくなるという悪循環が発生している。

また、地域コミュニティの希薄化も進んできており、地域活動の低下にも繋がっている。

平成２８、２９、３０年度の取り組みは、主に各集落で課題になっていることを住民自らが協働作業によりそれを解決する、地域コミュニティ活動の支援であり、３年間で地区内１８集落の内、１６集落が実施した。

１０集落は、それぞれの課題やその解決策を地域で話し合い、実施することにより、区民の生活の利便性の向上や安全な地域活動の確保、また、これまでの維持管理等の負担軽減を図ると伴に地域コミュニティを深める環境整備が図られた。

また、１集落では、今年度地域の活性化を図るべく、地域の魅力発信やＰＲを兼ねた事業として地域資源を活かした地区民参加による事業を展開し交流人口の増加を図った。

さらに１集落では､集落を見下ろせる丘上に、国旗掲揚柱を設置し、自国を愛し、他国を尊重する心並びに郷土を愛し、他人の考え方を尊重する心を育み、もって地域コミュニティの醸成を促した。

これらの取り組みを通して、自らが考え、行う地域づくりの大切さと地域コミュニティ向上の重要性が再認識できた。

５　今後の展望

この３年間で１６集落の取り組みがあり、１４の集落で施設等の利便性が向上し、環境整備が実施された。今後これらの積極的な利用や活用による地域コミュニティの向上と自主的で継続的な地域活動の取り組みを期待したい。

また、地域資源を活かした事業やコミュニティ意識の醸成を図る事業も実施されてきたが、今後、更なる地域の活性化に資する新たな取り組みがなされることが望まれる。

これにより、希薄となってきているコミュニティの醸成がはかられ、引いては富田地区全体の活力に繋がっていくことに期待したい。